

文化庁委託事業

ndjc:若手映画作家育成プロジェクト2026

NEW DIRECTIONS IN JAPANESE CINEMA

募集要項

応募書類の提出締切 2026年5月18日(月) 12:00まで

—問い合わせ先—

特定非営利活動法人映像産業振興機構(VIPO) ndjc事務局

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル2F / TEL:03-3543-7531

MAIL : ndjc@ndjc.bunka.go.jp

公式サイト : <https://ndjc.bunka.go.jp/>

募集要項、提出書類(様式①～⑤)、および脚本フォーマットは、
ndjc公式サイトでダウンロードのうえ、ご使用ください。

はじめに

文化庁が主催する「令和8年度若手映画作家等の育成事業」は、次代を担う若手映画作家の発掘と育成を目的として、映像産業振興機構(VIPO)が文化庁から委託を受けて運営する人材育成事業です。具体的には、若手映画作家を対象として、ワークショップや製作実地研修をとおして作家性を磨くために必要な知識や本格的な映像製作技術を継承することに加え、上映活動等の作品発表の場を設けることで、今後の活動の助力となるよう支援します。

つきましては、募集要項のとおり作家を募集します。

応募書類に基づき一次選考を行い、ワークショップ参加者を選出します。選出人数は10～15名程度とし、その中から、提出物やワークショップでの成果などを勘案して最終選考を行い、製作実地研修に進む作家を4名程度決定します。なお、選考では有識者による選考委員が審査を行います。

応募は、要件に沿った団体の推薦によることとなっておりますので、案内をご参照ください。

ndjc…「New Directions in Japanese Cinema」の略。当プロジェクトのコンセプトは、日本映画の新しい方向性と可能性を指し示すことのできる、「次代を担う人材」の発掘・育成をすることです。

募集要項の内容

- I. プロジェクト参加希望者の皆さまへ
- II. 作家の推薦をおこなう団体の皆さまへ
- III. 応募書類の提出方法
- IV. スケジュール

提出書類について

申込書(様式①～⑤)、および脚本フォーマットは、ndjc 公式サイト(<https://ndjc.bunka.go.jp/>)よりダウンロードのうえ、ご利用ください。

I. プロジェクト参加希望者の皆さまへ

1. 概要

すでに相応の映像製作実績と評価を有する若手映画作家を対象として、ワークショップや短編映画作品の製作実地研修を実施。作品完成後は、映画関係者等に向けての上映会、講師等による講評会等、発表・フィードバックの機会を提供。

2. 応募資格

(1)日本国籍又は日本の永住資格を有すること。

(2)2026年3月31日時点で35才未満(1991年4月1日以降生まれ)の年齢条件を満たすこと。

(3)過去に商業長編映画の監督経験がある(以下のいずれかに該当する)者は除く。

①「商業長編デビュー作」としている作品を有する者。

②東京都内で、1日3回、2週間を超えて、商業映画館にて上映された40分以上の劇映画作品を監督した者。

③未公開だが、商業映画を監督し、すでに撮影を完了している者。

(判断に迷う場合は事前に事務局までお問い合わせください。)

(4)過去に当プロジェクトにおいて製作実地研修に参加した者および本年度、同一の作品・プロジェクトで、既に文化庁(文部科学省)の支援を受けている者は除く。過去のワークショップまでの参加者については再応募可。

(5)自身が監督を務めた映画制作の実績があり(アニメーション・ドキュメンタリー不可)かつ以下のいずれかに該当すること。

①自身が監督した映画が映画祭等に入選し、評価を得た実績がある。

②TVドラマ監督、助監督、CM・MVディレクターいずれかを務めた商業映像作品での実務経験がある。

③映画・映像に関する大学や専門学校にて優秀な成績を修めた実績がある。

(判断に迷う場合は事前に事務局までお問い合わせください。)

(6)育成対象は、作家個人とする(グループでの応募は不可)。

(7)応募は、団体等の推薦によるものとする。応募にあたっては、製作実地研修者に選ばれた場合、2026年8月～2027年3月にかけて行われる脚本指導、作品制作、合評上映会等への出席が必要であること、報酬の支払いはないことなど、P3「3.留意事項」およびP8「IV.スケジュール(予定)」を確認したうえで推薦団体に相談すること。(推薦ができる団体等については、P5「II.作家の推薦をおこなう団体の皆さまへ」を参照)

(8)応募時に以下を提出すること。(詳しくは、P6「III.応募書類の提出方法」を参照)

①製作実地研修で製作したい作品の脚本・企画意図・プロット

●フィクションでオリジナルの実写映画に限定し、上映時間はクレジット等全てを含め、25分以上 30分以内とする。本事業の趣旨に鑑み、年齢等による鑑賞制限がかからず、広く発表できるものを前提とする。

※特定の思想・宗教を勧奨、あるいは誹謗中傷するものは不可。

※既存の著作物の使用・引用は、自身が過去に制作したものを含めて不可。

●脚本は、参加作家自身が執筆すること。

●製作実地研修における指導の過程で、改訂が求められることを承諾すること。

②事務局の指定する様式による応募書類(ndjc 公式サイトよりダウンロード)

③(5)の条件を満たしていることを示す資料

(9)学生または会社・団体等に所属する者は、ワークショップ及び製作実地研修の参加について、所属先の承認を得ていること。

3. 留意事項

- (1) 当プロジェクトは、ワークショップや短編映画の製作実地研修等とおして若手作家に学びの場を提供する人材育成事業です。製作実地研修では短編映画の完成を目指しますが、作品の完成を保証するものではありません。また、研修参加者に対して、いかなる報酬も支払われません。
- (2) 製作実地研修での交通費は、規程の範囲内で支払われます。ワークショップ時の交通費は支払われません（実施場所への移動距離にかかわらず同様の取扱いとなります）。
- (3) ワークショップは全日程参加を必須とします。製作実地研修は、作品制作期間の全日程を拘束するものではありませんが、事務局や制作団体の提示する日程に合わせてスケジュールを調整していただきます。
- (4) 製作実地研修の参加にあたっては、指定した期限内に作品を完成させることとします。
- (5) 当プロジェクトにて完成した作品の著作権は当機構が有します。ただし、作家が独自に行う上映活動や続編・長編製作等のための利用を妨げるものではありません。
- (6) 研修内容に関する情報について、当プロジェクトの趣旨にのっとり開示する場合があります。
- (7) 申込書等、提出書類に記載された個人情報[※]は審査にのみ使用しますが、ワークショップ及び製作実地研修参加作家の氏名、推薦団体名は公開します。
- (8) 応募時の提出物は返却しません。記載内容に関して照会することがありますので、必ず写しをとり、保管してください。なお、提出物は選考後、事務局で責任をもって廃棄します。
- (9) プロジェクト参加作家の審査等は、事務局内に設置する有識者による選考委員会で公正に行われます。なお、審査結果に関するお問い合わせには一切応じることはできません。
- (10) 応募にあたっては、団体等の推薦が必要です。推薦が可能な団体等についてはP5「II. 作家の推薦を行う団体の皆さまへ」を参照し、自身とかかわりのある団体等に相談してください。
- (11) これまで推薦いただいた団体の一覧をP4に掲載しますので、参照してください。それぞれ、推薦当時の活動に基づく推薦のため、現段階でも同様の活動をしているとは限りません。また、必ず推薦をしてくださる団体として提示するものでもありません。推薦団体を探す際の参考として活用してください。
- (12) 本年度、同一の作品・プロジェクトで、既に文化庁(文部科学省)の支援を受けている場合は応募資格がありません。応募後に支援が決定した場合は速やかに事務局へご連絡ください。

<参考>これまで作家を推薦いただいた団体一覧(抜粋)

あいち国際女性映画祭	ディレクターズクラブ
熱海国際映画祭	デジタルハリウッド大学
池袋みらい国際映画祭	東京学芸大学
伊参スタジオ映画祭 実行委員会	東京学生映画祭
岩槻映画祭実行委員会	東京藝術大学
うえだ城下町映画祭	東京藝術大学大学院 映像研究科
映画の会 (カナザワ映画祭)	東京工芸大学
映画美学校	東京ビジュアルアーツ・アカデミー
映像文化製作者連盟	東京フィルムセンター 映画・俳優専門学校
エディンバラ大学大学院	東放学園映画専門学校
ENBUゼミナール	東北芸術工科大学
大阪アジア映画祭	東北新社映像テクノアカデミア
大阪芸術大学	栃木・蔵の街かど映画祭
大阪ビジュアルアーツ・アカデミー	中之島まつり実行委員会
大須にじいろ映画祭 実行委員会	名古屋市立大学
沖縄県立芸術大学	名古屋学芸大学
小布施短編映画祭 実行委員会	那須ショートフィルムフェスティバル 実行委員会
九州産業大学	なら国際映画祭
京都映画芸術文化研究所	日本アド・コンテンツ制作協会
京都銭湯芸術祭 実行委員会	日本映画インフラストラクチャ協会
京都芸術大学	日本映画監督協会
京都ヒストリカ国際映画祭 実行委員会	日本映画撮影監督協会
クイーンズランド工科大学	日本映画製作者協会
COSMO FEST (杉並ヒーロー映画祭)	日本映画製作者連盟
札幌国際短編映画祭	日本映画大学
さぬき映画祭	日本映画テレビ技術協会
サンダンス・インスティテュート/NHK賞事務局	日本映画テレビプロデューサー協会
しがショートムービーフェス実行委員会	日本国際映画著作権協会
シナリオ・センター	日本シナリオ作家協会
シネアスト・オーガニゼーション大阪	日本大学 芸術学部
シネマジャンクション	ニューシネマワークショップ
下北沢映画祭	函館港イルミネーション映画祭 実行委員会
ジャパン・フィルムコミッション	八王子ShortFilm映画祭
城西国際大学	PFF
ショートショートフィルムフェスティバル&アジア	福井映画祭 実行委員会
新人監督映画祭	福岡インディペンデント映画祭 実行委員会
神保町映画祭	水戸短編映像祭
SKIPシティ国際Dシネマ映画祭	武蔵野美術大学
SeishoCinemaClub	明治大学
大学コンソーシアム京都	山形国際ムービーフェスティバル 運営委員会
高崎映画祭	ゆうばり国際ファンタスティック映画祭
宝塚大学	ユニジャパン
田辺・弁慶映画祭 実行委員会	横浜美術大学
TAMA映画フォーラム 実行委員会	立教大学
多摩美術大学	立命館大学映像学部
TMS東京映画映像学校	龍谷大学
調布フィルムコミッション	早稲田大学
TMS東京映画映像学校	

Ⅱ. 作家の推薦をおこなう団体の皆さまへ

当プロジェクトは、文化庁が主催する人材育成事業であり、審査を公正におこなう必要がある等の観点から、応募にあたっては以下に該当する団体からの推薦をお願いしています。

初めて作家を推薦いただく場合には、以下に該当する団体であることを確認させていただきますので、書類提出の前に必ず事務局までご連絡ください。

1. 推薦団体の要件

映画・映像関連団体で、これまでの活動が映画・映像振興において十分な社会的実績をもつこと。

具体的には、以下のいずれかに該当することを原則とします。

- 過去の活動において、文化庁をはじめとする公的団体の後援・支援等を得た実績があること。
- 広く公募、告知をおこなう活動の場合には、十分な応募者(学校の場合は、受験者)があったこと。
- イベントを実施する形式の場合には、直近10年以内に3回以上の実施実績があること。
- 映画・映像関連会社、個人等が会員となる組織で、継続して会員サービスをおこなっていること。

※会社・個人から直接推薦することはできません。

所属する統括団体(日本映画製作者連盟、日本映画製作者協会等)を通じて推薦してください。

※学校が推薦する場合は、研究室、ゼミ、ラボからの推薦は不可とします。

2. 推薦団体の責務

(1)事務局および作家との連絡が滞りなく行える窓口担当者の配置をお願いします。

(2)応募書類は、**推薦団体からご提出ください**。プロジェクト参加希望者から必要書類をとりまとめていただき、期限までに事務局にご提出ください。

(3)応募書類をご提出いただいてから製作実地研修参加作家の決定までの間は、**事務局からのご連絡は、原則として作家ではなく推薦団体の皆さまに差し上げます**。事務局からの連絡事項について、作家へのご共有をお願いします。

(4)申込書等提出書類に記載された個人情報**は審査にのみ使用しますが**、ワークショップ及び製作実地研修参加作家の氏名、推薦団体名は公開しますので、あらかじめご了承ください。

(5)応募時の提出物は返却しません。記載内容に関して照会することがありますので、必ず写しをとり、保管してください。なお、提出物は選考後、事務局で責任をもって廃棄します。

(6)プロジェクト参加作家の審査等は、事務局内に設置する選考委員会で公正に行われます。なお、審査結果に関するお問い合わせには一切応じることはできません。

(7)応募書類のうち、様式④-1(作家推薦の根拠、応募脚本の評価、ほか特記事項)、④-2(参加資格確認事項)は推薦団体の対応が必須のため、あらかじめ確認の上、漏れなく記載してください。

Ⅲ. 応募書類の提出方法

応募書類は推薦団体よりご提出いただきます。応募者は、提出方法等に関して推薦団体の指示に従ってください。提出方法・提出物は以下のとおりです。

1. 提出方法

推薦団体より、応募書類一式をメールでご提出ください。

・送付アドレス: ndjc@ndjc.bunka.go.jp (VIPO ndjc 事務局 宛て)

・件名: ndjc2026 応募書類_推薦団体名

2. 提出物

応募書類はすべてA4サイズで、日本語で作成してください。

外国語の書類がある場合は、日本語訳を添付してください。

(1) 様式① 参加申込書

(2) 様式② 履歴書

(3) 様式③ 経歴書

(4) 様式④-1 推薦書(推薦団体が作成)

(5) 様式④-2 参加資格確認事項(推薦団体が作成)

(6) 様式⑤ 参加志望理由書

(7) 入選等の実績を証明するもの

(8) これまでに監督した映画作品 ※アニメーション・ドキュメンタリー不可

※提出は1作品のみとし、視聴リンクを記載してください。

(9) ワークショップ及び製作実地研修の参加を了承する文書

※学生または会社等に所属している方は、所属先が発行する参加了承文書を提出してください。書式は問いません。

製作実地研修で製作したい作品の

(10) 企画意図・演出プラン ◆1200字以内、A4サイズ **1枚**におさめること ※文字数を記載

(11) プロット ◆1200字以内、A4サイズ **1枚**におさめること ※文字数を記載

(12) 脚本

【脚本の注意事項】

◆脚本は、公式サイトよりダウンロードした所定フォーマットを必ず使用すること。

◆脚本は1本のみ。今回の応募のために書き下ろした新作で、未発表のもの。

◆脚本の冒頭に人物表(年齢を記載、人物名にはふりがなを添える)を付けること。

◆25分以上30分以内の尺におさまる内容を想定すること。

◆読みやすい字間・行間で作成すること(次ページの作成例を参照)。

3. 提出期限

応募書類の提出: 2026年5月18日(月)12:00まで【必着】

【脚本作成例(読みやすい字間・行間の例)】

ndjc2023 完成作品 『光はどこにある』(野田麗未監督)より抜粋

28 同・シャワー室

ストレッチャーのまま、声かけをし合いながらシャワーを開始する一同。

灯 里「山野さんお湯かけますね。足伸ばします。(佳子の体を起こして)傾けます、セーの。背中洗います」

朝 倉「(右手を洗いながら)お願いします」

看護師の声「一分経過」

灯 里「痒いところないですか？」

必死な灯里の表情。それを見る佳子の表情。

29 同・廊下く佳子の個室病室

病室に戻ってくる一同。

朝 倉「ストレッチャー入ります！」

果 穂「良かったね、お母さん……お母さん、お母さん？」

脱力した佳子の状態変化に果穂が気付く。

灯 里「山野さん？」

病室前で一人立ち止まってしまう灯里。

奥 山「急ごう」

朝 倉「上げますよーゆっくり」

奥 山「戻るよ」

一 回「セーの1、2、3！」

戻る佳子。駆け寄る果穂。

果 穂「お母さん……」

皆が声を出しながら、それぞれの作業に取り掛かる。

奥山、血圧を測る。朝倉、鼻酸素を酸素マスクに替える。

師長は点滴ルートを接続する。

奥 山「心電図繋いで」

看護師「はい。プローブ下さい」

ふと我に返った灯里がプローブを付けようとするが落

としてしまう。朝倉がそれを拾い心電図に繋げる。灯

里はその場に座り込んだまま動けない。

と、佳子が覚醒する。

IV. スケジュール

1. ワークショップ参加作家決定……2026年7月 ※事務局より推薦団体へ連絡

2. ワークショップ ……………2026年7月～8月、東京近郊(予定)

(1) オリエンテーション／1日

講師紹介・作品テーマ発表・機材配布・講義 等

(2) 課題撮影／5日～7日

配布された機材を使用して、テーマに沿った作品を撮影

(3) 編集作業／2日

撮影素材を編集し、テーマに沿った作品を編集・完成

(4) 講評会／1日

完成作品を全員で鑑賞、講評

(5) プレ脚本指導／一人20分程度

脚本講師による、主に応募脚本に関する指導・質疑応答
⇒一週間程度をかけて脚本を改稿

※ワークショップ内容は変更になる
場合があります。詳細決定次第、
公式サイトにてご案内します。

3. 製作実地研修参加作家決定……2026年8月

4. 製作実地研修……………2026年8月～2027年1月

製作実地研修は、事務局が指定する制作団体を通じて実施します。制作団体には、作品製作に関して適切な業務分担・指導を行い、参加作家との連絡・協議、事務局が指定する必要業務に対応することができる団体を充てるものとします。

<おおまかなスケジュール>

8月～10月 脚本開発／11月 撮影／12月～1月 仕上げ／1月 完成

5. 作品発表……………2027年3月

映画関係者・マスコミ等を対象とした合評上映会・講評会等